老舗婦人靴店のウォーキングパンプスの原点

シューフィル　城（たち）　一（いっ）生（せい）

1950年代中頃（昭和30年頃）から始まる高度経済成長期には、靴の需要も一気に伸び、都市化や女性の社会進出に伴うファッション化も広がっていった。ディオールなどのデザイナーが発表するパリ・オートクチュールや、当時全盛だった映画スターのファッションの影響を受けたデザインの婦人靴が次々に打ち出され、女性のおしゃれ心を楽しませていた。そんな時代に流行した靴の多くはポインテッドやスクエアトウのハイヒールやローヒール。そして、普及し始めた接着製法のスマートな靴が、価格の安さもあり徐々に増えていった。

1960年前後の銀座ヨシノヤ店頭

一方で、注文靴を請け負う製造小売店や職人も健在で、時代の変化に対応した婦人靴を作る店もあった。そんな店の代表格だったのが1907（明治40）年創業の老舗靴店、銀座ヨシノヤ。戦前に日本初の婦人子供靴専門店を開いたり、舞台靴や舞踏靴を手広く請け負ったり、おしゃれで履き心地の良い靴づくりで知られていた。

その銀座ヨシノヤが50年代初めに製造したハンドメードのオーダー靴が左の一足。いかにも足入れのよさそうな靴型と仕立ての良さ、今も色褪せない上質のカーフ素材に開けられたパンチングも手作業という丁寧な仕事ぶりだ。そして、右の靴は1957年に製造したマッケイ製法の革底ウォーキングパンプス。オーダー靴のノウハウを生かし、履き心地のよさを木型、中底、すべて革使いの先芯、月型など細部に至るまで追求して既成靴として展開した。その後、このシリーズはマイナーチェンジを繰り返しつつ同店の定番、ロングセラーとして今日に至るまで作られている。まったく同デザイン同仕様で15年以上販売されたパターンもあるという。時代に先駆けたコンフォート・ウォーキングパンプスならではの逸話である。

業界で足の健康に注目し、シューフィッターが誕生したのが80年代半ば。以後、様々なコンフォート・アプローチが行われたが、靴は市場のニーズを十分にとらえきれていない。人生百年時代を迎え、健康長寿のためには何よりも歩くことが大切といわれている今日、履き心地の良い靴が、今後ますますクローズアップされよう。

ハンドメードのオーダーパンプス（1950年代初期）

1957年製造のウォーキングパンプス